

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和6年度事業経過報告公表資料

基本目標1	村の資源を活かした新たな雇用を創出する			R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)
数値目標	5年間で、30人の雇用の場の確保を目指す（第1期実績20人）		30	3	6	13	14	4	40	133.3333	
		単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)	
(1) 起業・第二創業等の支援											
	創業相談件数	件数	30	0	0	2	3	3	8	26.7	
		地域おこし協力隊2名とたばやま複業協同組合から相談あり									
	起業・第二創業及び村外からの事業者の誘致件数	件数	15	0	0	3	3	1	7	46.7	
		たばやま複業協同組合									
	委員からの意見等	地域おこし協力隊制度等を上手に活用し、創業・起業者数を確保することを努める必要がある。									
(2) 農林業の基盤整備と6次産業化の支援											
	遊休農地・耕作放棄地の活用面積	ha	2.00	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	25.0	
		振興課からの数字の集計									
	新たな特産品の開発	件数	18	5	2	2	3	2	14	77.8	
		ウイスキー2種類									
	直売所の農産物販売額	万円/年	2,000	675	897	903	750	730	791	36.5	
		指定管理者への聞き取り									
	企業の森の整備面積	ha	10	2.3	1.6	2	9	10	25	249.0	
		振興課からの数字の集計									
	農林業の担い手の育成数	人	5	1	2	2	2	2	9	180.0	
		振興課からの聞き取り									
	都市農村交流人口の増加（H30年度時点200人を基準）	人	200	56	42	278	394	229	200	114.5	
		振興課からの聞き取り									
	農林業を獣害から防ぐための猟友会員の増加（35人に対して、各年度での数値の増減）	人	35	-4	1	-1	0	2	-0	105.7	
		振興課からの聞き取り									
	委員からの意見等	・開発数に加え、販売額など測定することで経済波及効果をより測定できる。 ・企業の森の整備面積は順調に推移していることがうかがえる。今後も様々な企業と連携して、整備を進められたい。 ・獣害被害を測定するのであれば、被害面積の減少率等を測定すべき。 ・農産物の販売額増大のため担い手の確保等を進めるべきである。									

基本目標2	観光の振興による交流人口の拡大を図る			R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)	
数値目標	平成30年を基準として観光入込客数の1割増加を目指す			242,143	148,199	162,212	170,713	190,627	190,000	172,350	78.7	
				単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)
(1)豊かな自然環境と地域資源を生かした新たな観光産業の創出												
	新たな観光商品の開発			件数	30	5	2	3	3	2	15	50.0
				・ マーダーミステリー 2種類								
	村内キャンプ場の利用者数			人/年	10,000	5,276	6,978	7,754	7,743	8,416	7,233	84.2
				聞き取りによる成果								
委員からの意見等				・ 開発数を測定するのではなく、利用者数を測定すべきである。								
(2) 丹波山ファン獲得のための情報発信												
	村及び観光協会ホームページビュー件数			件/年	557,000	446,042	453,778	475,216	532,156	475,762	476,591	85.4
				集計による結果								
委員からの意見等				・ SNS等の活用とその数値の測定を今後検討すべきである。								
(3) 観光基盤の整備と観光拠点の充実												
	村内 山小屋の利用者数			人/年	4,800	3,266	4,257	3,714	4,312	10,175	5,145	212.0
				集計による結果								
	温泉施設「のめこい湯」の利用者数95000人/年			人/年	95,000	41,462	38,600	51,713	65,247	69,770	53,358	73.4
				集計による結果								
委員からの意見等				・ 山小屋の利用者数の伸びが著しいため、増加した理由や以前の集計方法を含め、よく分析すべきである。								

基本目標3		首都圏からの移住・定住促進									
数値目標		令和元年を基準として、転入者数2割増加を目指す（R1時点51人のため目標62人）令和6年度時点156人（新規移住者数と同義）									
		単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)	
(1) 都市との交流推進と移住情報の発信											
	新規移住者数	人	62	49	20	40	29	18	156	251.6	
(2) U・I ターンの促進											
	子育て世帯の移住者数	人	30	10	4	12	15	6	47	156.7	
	地域おこし協力隊任期終了後の村内での定着率	%	75	75	69	53	60	51	62	68.0	
	村出身学生等のUターン就職者数	人	3	3	3	2	0	1	9	300.0	
委員からの意見：特になし											
(3) 移住・定住に向けた受け入れ体制の整備											
	空き家バンクの登録数	件	10	0	1	3	0	0	4	40.0	
	空き家利用件数	件	10	0	0	2	2	2	6	60.0	
モパイル住宅、旧根石木材店											
	委員からの意見等	・地域おこし協力隊の定着率は任用の年数が増加するほど落ちるものと推測される。定着率にこだわりすぎる必要はないのではないか。 ・空き家バンク制度の運用については、今後方針を再度考慮しなおす必要がある。									

基本目標4	若い世代が安心して子育てできる村づくり	単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2×R6合計	達成率
数値目標	令和元年を基準として、子育て世帯の2割増加を目指す	世帯	27	4	2	5	6	2	19	70
		単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2×R6合計	達成率(%)
(1)結婚適齢期の男女の出会いの機会提供										
	村内定住結婚件数	件	3	0	1	1	1	0	3	100.0
(2)出産や子育て支援の充実										
	子育て世代への相談窓口周知度	%	100	100	50	60	70	50	66	50.0
	乳幼児健康診査の受診率	%	100	90	100	91	100	94	95	94.0
	産前産後ケアセンター利用者の満足度	%	80							0.0
(3)学校教育内容の充実と教育環境の整備										
	学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合	%	90	84.0	86.4	85.0	75.0	88.0	83.7	97.8
		小・中学校への聞き取り								
(4)これからの村づくりを担う人財の育成										
	総合型地域スポーツクラブ「タバスキークラブ」員数	人／年	50	0	0	12	15	20	9	40.0
	村民学習講座「清流学習会」の講座数	講座（延べ）	20	0	0	0	2	4	6	30.0
	ささら獅子舞伝承者数	人／年	60	56	56	73	62	55	60	103.3
	委員からの意見等	・産前産後ケアセンターの利用者がいないことから、産後の満足度を測定するために別の数値を測定するべきである。								

基本目標5	生涯健康で安心して暮らせる村づくり										
数値目標	村民の満足度向上を目指す 70%以上 最終年度測定										
			単位	R6KPI	R2	R3	R4	R5	R6	R2・R6合計	達成率(%)
(1) 保健・医療の充実											
	特定保健指導対象者減少率 20%減	%	20	50	50	19	10	30	32	50.0	
(2) 高齢者の生きがいつくりと社会参加											
	丹波山村に住み続けたいと思う人の割合 70%以上	%	70					70		100.0	
	75歳以上に占める要介護者の割合	%	20	18.5	22.9	18	23	25.94	22	129.7	
(3) 認知症サポーター養成講座の開催											
	認知症サポート養成講座の受講者数 延110人	人	30	3	15	9	5	5	37	123.3	
(4) 介護サービスの充実											
	デイサービス利用者数 延1,500人/年	人/年	1,500	1,359	934	1,098	1,023	687	1,020	45.8	
	ホームヘルプサービス利用者数 延130人	人/年	130	0	0	0	0	0	0	0.0	
	デイサービス・ホームヘルプサービス利用者の満足度 80%以上	%	80	83				67	75	0.0	
	委員からの意見等	・デイサービスの利用者が増えることが必ずしも良いこととは限らない。高齢者福祉を測定するためにより効果的な数値を考える必要がある。 ・高齢者の生きがいと社会参加という目標に対し、丹波山村に住み続けたいと思う人お割合は対象世代の幅が広いと感じる。									